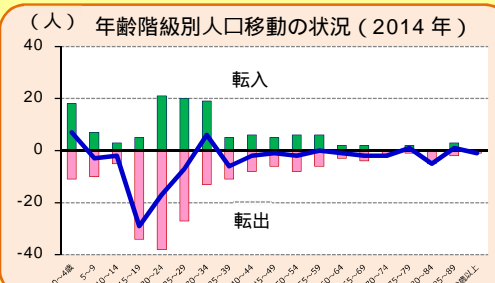
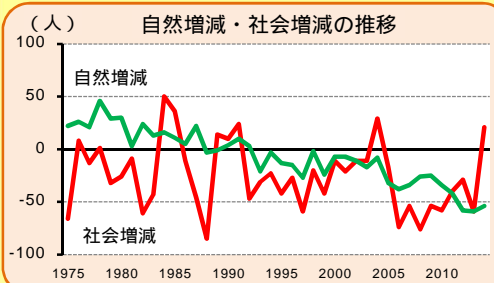
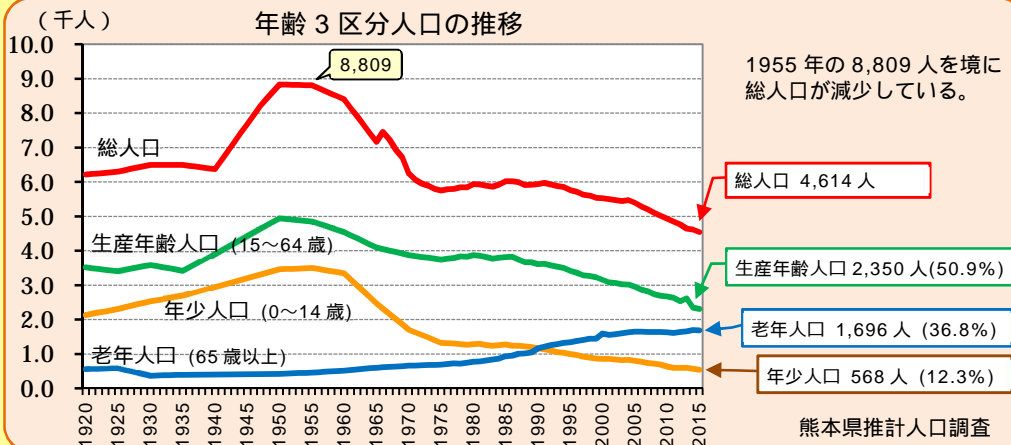


相良村人口ビジョン【概要版】

人口の現状

2014年の人口 4,614人 (熊本県 179.4万人)



<これまでの人口動態と長期的な人口推移>

本村は、ベビーブームの影響もあり、1955年(昭和30年)まで人口増加しましたが、昭和40年代にかけ高度経済成長に伴う大都市圏への人口集中を背景に、転出等により急激に人口が減少しました。昭和50年代以降は、自然増減(出生と死亡の差)と社会増減(転入と転出の差)がともに小さくなり人口の大きな変化はありませんでしたが、1995年(平成7年)以降、高齢世代の長寿命化で老年人口は増加しているものの、少子化や進学・就職等の転出により人口が再び減少に転じています。今後しばらくは、高齢世代が増加するものの、高齢世代の減少に転じていくものと予想され、進学、就職等による転出、更なる出生率の低下と出産可能な年齢層に該当する女性人口の減少による出生数の減少による人口減少はさらに加速すると考えられています。

- 自然増減 59人(2013年)
- 合計特殊出生率 1.86 (熊本県 1.64、全国 1.41)
 - 高齢化率 36.8% (熊本県 28.0%、全国 26.0%) ⇒ 2.7人に1人が高齢者
- 社会増減 65人(2013年)
- 転出超過先 錦町24人、熊本市16人、人吉市11人、県内その他6人 ⇒ 半数は都市内に転出
 - 転出超過の主な年齢層 15歳から29歳 147人 ⇒ 転出超過は若年層に集中

人口の将来展望

2060年の人口 2,427人 (熊本県 144.4万人)

このまま何も対策を講じなければ、2060年の人口は1,889人まで減少
(国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計準拠)

【人口減少の影響】

- 生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小
- 地域産業の担い手の減少に伴う技術・技能の継承困難
- 老年人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の一人当たり負担増
- 地域活動の担い手の減少に伴う地域コミュニティ維持・存続困難、地域文化の継承困難

めざすべき 将来の方向

- 相良村における安定した雇用を創出する
- 相良村への人の流れを創るとともに、移住・定住を促進する
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守る

【将来展望の仮定】 合計特殊出生率 2030年から1.9、2045年から1.95、2060年に2.0
社会減 2030年以降に半減

【将来展望】 2060年の人口 2,427人(社人研の推計から538人の抑制)

